

桐朋

アカデミー・オーケストラ

2013春季

コンサート・スケジュール



4.26(金)

桐朋アカデミー・オーケストラ

第46回 定期演奏会

オーバード・ホール 開演19:00(開場18:30)

指揮/服部讓二(ウィーン室内管弦楽団正指揮者)

ピアノ独奏/ネーレ・オラマニアン(モントリオール国際音楽コンクール 2008年優勝)

ニコライ:歌劇「ウインザーの陽気な女房たち」序曲

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調「皇帝」作品73

チャイコフスキー:交響曲 第6番 口短調「悲愴」作品74

入場料2,000円(全席自由/友の会会員・学生・生徒・児童 無料)

5.18(土)・19(日)

桐朋学園大学院大学 桐朋アカデミー・オーケストラ

コンチェルト実習公開授業

富山市民芸術創造センターリハーサル室 [JR呉羽駅南側徒歩5分]

両日とも開演15:00(開場14:30)

指揮/円光寺雅彦(桐朋学園大学院大学特別招聘教授)

独奏/桐朋学園大学院大学第2年次生

モーツァルト:ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K.491

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15

リスト:ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調

ドヴォルザーク:ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53

(演奏順不同)

入場無料

6.15(土)

桐朋アカデミー・オーケストラ

特別演奏会

〈ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の
メンバーを迎えて〉

オーバード・ホール 開演15:00(開場14:30)

指揮/デリック・イノウエ(ニューヨーク・メトロポリタン・オペラ指揮者)

モーツァルト:歌劇「フィガロの結婚」序曲 K.492

スメタナ:連作交響詩「わが祖国」より 第1曲 高い城、第2曲 モルダウ

ドヴォルザーク:交響曲 第3番 ト長調 作品88

入場料3,000円(全席自由/友の会会員・学生・生徒・児童 無料)

桐朋オーケストラ・アカデミー「友の会」会員募集中

※演奏曲目・出演者等は変更になる場合もあります。演奏会等に関する最新情報は、本学ホームページ(<http://www.tohomusic.ac.jp>)をご覧ください。※オーバード・ホールは、JR富山駅北口そばです。
※チケットは、3月1日(金)より下記プレイガイドにて一斉発売予定。有料の演奏会につきましても、桐朋オーケストラ・アカデミー友の会会員・学生・生徒・児童の皆様は、無料でご入場いただけますが、満席となった際は入場をお断りすることがございます。あらかじめご了承ください。

チケット販売所 桐朋学園音楽部門富山キャンパス事務室、北日本新聞本社プレイガイド、アスネットカウンター(オーバード・ホール1F)、ミヤコ楽器店
主催/桐朋オーケストラ・アカデミー、桐朋学園大学音楽学部、桐朋学園大学院大学、(公財)富山市民文化事業団、富山市、富山市教育委員会、(株)北日本新聞社 後援/富山県、(社)富山県芸術文化協会
(お問い合わせ) ☎930-0138 富山市呉羽町1884-17 桐朋学園音楽部門富山キャンパス事務部演奏課 Tel.076-434-6800

桐朋アカデミー・オーケストラ

2013春季コンサート・スケジュール

4.26(金) 第46回 定期演奏会



〈プロデュース・指揮〉服部 譲二

1969年東京生まれ。8歳で家族と共にウィーンに移り住む。20歳でイギリスのメニューイン国際ヴァイオリン・コンクールで第1位、同時にバッハ賞、聴衆賞を受賞。92年、第3回新日録音楽賞「フレッシュ・アーティスト賞」を受賞。ヴァイオリニストとして国際的に活躍後、2002年に第1回マゼール／ヴィラー指揮者コンクールにおいて「リンカーン・マゼール・フェローシップ賞」を受賞、カーネギー・ホールでのデビューを果たす。これを機に、指揮者として本格的に始動。04年よりウィーン室内管弦楽団の正指揮者に就任、ウィーン・コンツェルトハウスでの公演のほか、インド・ツアーなど海外公演でも成功をおさめる。そのほか最近ではウィーン交響楽団、ロンドンのフィルハーモニア管弦楽団、BBCコンサート・オーケストラ、スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団などを指揮している。これまでマリア・ジョアン・ピリス、ピョートル・アンデルジェフスキ、エリザベス・レオンスカヤ、エレナ・バシキロヴァらのソリストと共演。04年、ウィーン室内歌劇場のモーツァルト「偽の女庭師」でオペラ・デビュー。05年に新国立劇場の小劇場にレオン・カヴァッロ「ザザ」(日本初演)で初登場、06年には同大劇場でモーツァルト「魔笛」を指揮、好評を博した。07/08シーズンにはドイツ・エアフルト歌劇場の第1カベルマイスターを務めた。09年6月にはウィーン国立歌劇場にモーツァルト「魔笛」でデビューを果たす。そのほか、01年には日本を代表する若手音楽家から成る新しい室内オーケストラ「東京アンサンブル」を結成し、毎年東京公演のほか、韓国、ポルトガル、カナダ、ギリシャ、トルコ、オーストリアなど海外公演も積極的にやっている。09年より「オペラ・プロジェクト」を開始。また、桐朋オーケストラ・アカデミーにおいて室内楽・管弦楽を指導するなど、後進の指導にも力を注いでいる。



〈ピアノ独奏〉ネーレ・オラマニアン

アルメニア生まれで、ピアノを5歳から始める。3年後には、エレバンにある幼児英才教育のチャイコフスキー音楽学校でアレクサンドル・グルゲノフに師事した。2004年 ウィーン国立音楽大学に史上最年少で入学を許可され、ハインツ・メジモレックに師事し、室内楽では今もアヴェディス・クムジャンに師事している。また、2010年以降、ハノーバーでアリエ・ヴァルディの下でピアノの研鑽を続けている。2011～12年に迎えたヨーロッパでの最初のシーズンでは、ウィーン交響楽団、バーミンガム市交響楽団、hr(フランクフルト・ヘッセン放送協会)交響楽団、北ドイツ放送交響楽団、ストラスブル・フィルハーモニー管弦楽団、およびウィーン室内管弦楽団などのオーケストラで輝かしいデビューを飾った。チューリッヒ・トーンハレ、およびベルリン・フィルハーモニーなどでのリサイタルは熱狂的な反響を呼び、ノイエ・チュルヒャー・ツァイトウング紙には、「見事なまでに生き生きとしたアーティキュレーション、創意に富んだダイナミックな造型感、バス声部と旋律の間の説得力のある対話によって感銘を与えた」と紹介された。この成功を継続し、2012～13年のシーズンでは、ネヴィル・マリナー指揮のチューリッヒ・トーンハレ管弦楽団(サン＝サーンス/ピアノ協奏曲 第2番)、およびリカルド・シャイー指揮のライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団(バッハ/3台のピアノのための協奏曲)がデビューの場となる。北欧では、キリル・カラビツ指揮のオスロ歌劇場管弦楽団(プロコフィエフ/ピアノ協奏曲 第2番)、および新首席指揮者マイケル・フランシスによるノールショピング交響楽団(チャイコフスキー/ピアノ協奏曲 第1番)がデビューの場となる。ブランデンブルク交響楽団、ベルン交響楽団でも演奏する。今後共演予定の指揮者は、クリスティアン・アルミンク、ジェームズ・ガフィガン、マイケル・シール、カール・セント・クレア、山田和樹、シアン・チャン、ジャン・マリー・ゼイトウニ。一方、リサイタルや室内楽では、ヴァイオリン奏者のバク・ヘユンと共に、ロンドンのウイグモア・ホールにデビューする。オラマニアンは新しく組んだこのデュオで、チューリッヒ・トーンハレ、ドイツとオーストリア国内の各地、およびキプロスなど、その他の有名な会場に戻って演奏する。最近の音楽祭では、シュレースウィヒ＝ホルシュタイン音楽祭、メクレンブルク＝フォアポンメルン音楽祭、ダヴォス音楽祭、タンゲルウッド音楽祭、ラノディエール音楽祭、そして有名なマールボロ音楽祭で演奏している。2005年 ヨーゼフ・ディヒラー・ピアノ・コンクール(於:ウィーン)で第2位、2007年 国際ピアノ・キャンパス・コンクール(於:ポントアーズ)で優勝、同年 ホセ・ロカ国際コンクール(於:ヴァレンシア)で第2位、2008年 モントリオール国際音楽コンクールで優勝など目覚ましい数の賞を獲得し、今後活躍が期待される優れたピアニストの一人として世界から注目されている。

5.18(土) / 5.19(日) 桐朋学園大学院大学 コンチェルト実習公開授業



〈指揮〉円光寺 雅彦

桐朋学園大学指揮科卒業。指揮を斎藤秀雄、ピアノを井口愛子の各氏に師事。1980年、ウィーン国立音楽大学に留学し、オトマール・スウィトナーに師事。1981年に帰国後、東京フィルハーモニー交響楽団副指揮者に就任。1986年より1991年まで同交響楽団指揮者を務める。1989年より1999年まで仙台フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者としてオーケストラの発展に貢献し、その実績は高く評価されている。東京特別公演のライブをはじめ、仙台フィルとの演奏は多数CD化されており、その演奏からも両者の密接な関係を伺う事が出来る。1998年より2001年まで札幌交響楽団正指揮者を務め、2000年には、東京公演を指揮し好評を博した。他に、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団などに客演し、活動範囲を広げている。海外では、1992年プラハ交響楽団への客演をはじめ、1994年BBCウェルズ交響楽団、1995年にはベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団、1998年1月にはフランス・ブルターニュ管弦楽団に客演し、それぞれの地で、多くの聴衆を魅了した。国際的指揮者として、現在最も期待されている。2011年4月より名古屋フィルハーモニー交響楽団正指揮者に就任。2012年4月より桐朋学園大学院大学特別招聘教授に就任。

6.15(土) 特別演奏会



〈指揮〉デリック・イノウエ

カナダ生まれの指揮者デリック・イノウエは、オーケストラの指揮とオペラの世界の両分野において輝かしい成果を挙げている。2003年にメトロポリタン・オペラでベルリオーズ作曲「ベンヴェヌート・チェルリーニ」の新演出を指揮しデビューを飾って以来、プッチーニ「トスカ」、ドニゼッティ「ドン・パスカルレ」、ベルリオーズ「ファウストの劫罰」、ワーグナー「ワルキューレ」などを指揮、2006-07年シーズンにはセントラルパークで「椿姫」を4公演指揮している。2001年から2003年は、ニュールンベルグ・オペラのファースト・カベルマイスターを務めた。またシュトゥットガルト・オペラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ハンガリー・ステート・オペラ、ブカレスト・オペラとも共演。その他、ライプツィヒ放送管、モンテカルロ・フィル、フィンランド放送管、アイルランド・ナショナル響、フロリダ・フィル、ホノルル響、セント・ルース管、トロント響、ナショナル・アーツ・センター管、バンクーバー響等と共演。また、ニューヨーク・シティ・オペラ、バンクーバー・オペラにはたびたび客演、また、カナダのレジナ交響楽団の音楽監督も歴任した。日本においては、これまでに、新日本フィル、大阪フィル、日本センチュリー管、京響、兵庫芸術文化センター管、仙台フィル、札幌響、広響、群響、サイトウ・キネン・フェスティバル松本に招かれている。2006-07年シーズンには、広島オペラ協会の「フィガロの結婚」を指揮した。桐朋学園で小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明の下で指揮を学び、その後、ラインスドルフ、フェラーラに師事。1985年にはヴィットリオ・グイ指揮コンクール(フィレンツェ)で優勝している。

桐朋アカデミー・オーケストラ

《桐朋オーケストラ・アカデミー》は、プロ・オーケストラ奏者育成のための教育機関として、富士市の協力のもと、1995年9月、呉羽に開校いたしました。開校以来、桐朋学園の伝統である合奏教育を主とした独自のカリキュラムを編成し、内外の一流の教授陣が指導にあたっています。《桐朋アカデミー・オーケストラ》は、その教育成果を発表する実践の場として、教授陣及び、ここで研修する国内外各地で選抜された学生を中心に組織され、定期演奏会、特別演奏会、桐朋学園大学院大学生をソリストとする協奏曲のタバ等の公演を行い、地域の文化活動にも貢献しています。

